

2026 年度

SGT 活動レポート

My SGT

静岡大空襲と証言映像

7月23日(木)、特別授業の放課後を使い、第2回SGT発表会が行われました。今年度から始まったこのSGTは、MySGTと呼ばれる講座で生徒自身が発表者となり研究や活動の成果を発表する講座です。目まぐるしく変化する社会において入試も多様化しています。SGTも今までは生徒が講義を聞いたり活動に参加したりという形のものを中心でしたが、今年度から生徒の主体性を評価する取り組みとして生徒が講師となり研究の成果を発表する場としてこのようなSGTを設けました。個人研究や部活動での研究、校外での研究を含め、広く学びを促す機会を設けると同時に総合型選抜入試や推薦型入試での自己アピールにつなげていこうとする取り組みです。その第二段として今回は、静岡平和資料センターでボランティア活動に取り組んでいる高校2年生の高林咲希さんを講師に迎え、静岡大空襲とその被害を受けた方々の証言映像を見て平和について考えようという講座です。会場は、本校の図書館の自習スペースをお借りして実施しました。参加者は、中学生6名、高校生7名。それに教員6名と静岡平和資料センターの関係者が6名参加されました。

高林さんは、アメリカ軍やイスラエル軍によるイランに対する攻撃をきっかけに始まった戦争をきっかけに平和について深く考えるようになったと言います。こうした中、かつて静岡で起こった空襲による戦争被害に注目し、平和資料センターでボランティア活動を始めたと言います。

静岡に対する空襲は、大きく分けると3期に分けられます。第1期は、1944年11月24日から1945年3月4日までで1944年12月27日、1945年1月27日、2月19日に行われました。東京にあった中島飛行機武蔵製作所の往路・帰路に爆弾が投下され、5名が亡くなりました。第2期は、1945年3月10日から6月15日まで続き、4月4日、4月12日、4月24日、5月24日の夜間に行われ、三菱工場や住友工場の白昼の爆撃で217名が亡くなりました。また第21爆撃集団司令官となったカーティス＝ルメイは、「皆殺しのルメイ」と呼ばれ、街を焼き尽くす夜間焼夷弾空襲を何度も行いました。静岡でもルメイの残忍さ遺憾なく発揮され、5月24日静岡・安西地区への夜間焼夷弾空襲によって37人が亡くなりました。この空襲は、東京の市街地空襲の往路で行われたものでした。その他に4月7日、5月19日、6月10日にも軍需工場爆撃の往路・復路で爆撃がありました。そして第3期。1945年6月17日～8月15日の間に57の小都市が夜間焼夷弾空襲を受けました。特に6月20日の深夜に行われた静岡空襲では約2000人が焼き殺されました。7月7日は、清水空襲があり151人が殺されています。その後7月31日には清水市に対して駆逐艦による艦砲射撃に44人が亡くなり、8月1日には清水市に対する爆弾投下で32名が亡くなりました。この爆撃は神奈川県川崎石油コンビナートへの爆撃の帰路行われたものです。その他に7月30日にはアメリカ海軍艦載機による市民を狙った無差別攻撃、8月2日には八王子空襲の帰路、清水への爆撃が行われました。ちなみにルメイは、戦後、皮肉なことに日本の航空自衛隊の育成と発展と自衛隊機の供与に貢献があったとされ、勲一等旭日大綬章を授与されています。静岡のほか、浜松や沼津も空襲や艦砲射撃による攻撃にさらされ、島田には模擬原爆が投下されるなど死傷者数は全国8位にまで膨れ上がりました。

動画の中で証言する人たちのなかには6月20日の静岡大空襲の時に駿府城公園の堀に入り、布団を被ってその上から水をかけてくれた方がいたから助かったと証言する人や防空壕に入っても業火の中窒息した人たちがいたこと、水を求めて防火水槽の近くまでやってきて全身やけどのため息絶えた人、水をかけても消えることのないナパーム油が入った焼夷弾の炎を消すために、銃後の守りを任された女性たちが消火訓練をし、空襲の時も持ち場を離れることを許されず消火に励み亡くなった方がいることなどを知ることができました。なかでも幼い子どもの命を守ろうと必死で抱きかかえ、防空壕の前で息絶えた母親の絵は特に印象的でした。

この動画を見たあと、スマートフォンのアプリを使い、印象に残っていることについて参加者の皆さんからご意見をいただき、共有すると同時に平和とは何かについて改めて考えました。

最後に静岡大空襲の生き証人である「奇跡のクスノキ」について高林さんから説明がありました。このクスノキは、大空襲の5年後に起こった静岡大火も生き延びています。1945年の大空襲は全てを燃やし尽くし、殺し尽くす未曾有の惨禍ではありましたが、このクスノキは焼け焦げたにもかかわらず3年後には再び若葉が芽生え、現在も青々とした葉をつけ生い茂っているそうです。戦後80年、空襲の再び受けることなく経済的に成長した日本ですが、その影には戦争によって命を落とした人々の尊い犠牲があったことを私たちは、決して忘れてはなりません。



資料も配布されました。



空襲による被害です。



消火活動は義務でした。



楠は今も若葉をつけています。